

科 目 名	心理支援技術演習		副題		
担 当 者	伊東秀幸・伊東正裕				
開 講 期	前期	単位数	1 単位	配当年次	1 年次
授業の概要	学部で培ってきた心理支援に関する基礎知識と技術を再確認し、より具体的な事例検討を通して、適応の可能性と限界を考える機会とする。これにより、心理に関する支援をする者の特性や状況に応じて適切な支援方法を選択・調整することができるようになる。				
授業のねらい ・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心理支援に関する知識と技術を整理し、事例等に適切に当てはめることができる ・事例に則して複数の心理支援法の可能性を考えることができる ・支援領域別に心理支援計画を立てることができる 				
授業の方法・授業計画					
1	授業オリエンテーション：授業概要、到達目標、授業の進め方				
2	心理支援に関する知識の整理：カウンセラーの態度				
3	心理支援に関する知識の整理：精神力動論の人間理解				
4	心理支援に関する知識の整理：認知・行動論の人間理解				
5	心理支援に関する知識の整理：人間学の人間理解				
6	心理支援に関する知識の整理：内観と森田神経質				
7	模擬事例を用いた心理支援の具体的適用：子どもの事例				
8	模擬事例を用いた心理支援の具体的適用：成人の事例				
9	心理支援計画の作成：保健・医療分野の事例				
10	心理支援計画の作成：福祉分野の事例				
11	心理支援計画の作成：教育分野の事例				
12	心理支援計画の作成：産業・労働分野の事例				
13	心理支援計画の作成：司法・犯罪分野の事例				
14	心理支援技術の適用と倫理的配慮				
15	全体のまとめ				
期末	レポート				
授業に関する連絡	「でんでんばん」の通知機能を用いておこなう。				
評価方法及び評価基準	期末レポート（50%）、授業中の課題等への取り組み（50%）で総合的に判断する。				
事前・事後学習の内容	毎回の授業で具体的に説明する。事前・事後合わせて1時間の学習を求める。				
履修上の注意					
テキスト	特に使用しない。授業中に資料を配布する。				
参考文献	適宜紹介する。				